

総務沖繩

電子メールアドレス：o.fukusi@okinawa-j.jp

第 58 号

編集・発行



社会福祉法人

沖縄県社会福祉事業団

〒903-0804 那覇市首里石嶺町4丁目373番地1

TEL 098-884-3173(代)

FAX 098-882-5688

ホームページ：http://www.okinawa-j.jp/



作品名『幸せしーさー』

救護施設 いしみね救護園 利用者作品



新年度のあいさつ

理事長

はなしろう 花城可長

東日本大震災から1年余が経過したにもかかわらず復興への道のりはまだまだ険しく先が見えない状況です。しかし、絆という心のつながりを大切にみんなが力を合わせれば、この苦難も必ず乗り越えられると思います。一日も早い復興を願ってやみません。

さて、沖縄が日本復帰した昭和47年に県立の福祉施設の受託運営をするために設立された当事業団も今年で40年の節目の年を迎えます。平成18年度には県から12の福祉施設の経営移譲を受け、名実共に自主経営がスタートしました。その間、経営基盤の強化を図るべく平成20年度には、5力年間の「沖縄県社会福祉事業団経営計画」を策定し、事業団挙げて取り組んできたところです。

老朽化したいくつかの施設の建て替えも必要であり、昨年度は、児童養護施設「漲水学園」と障害者支援施設及び福祉型障害児入所施設「あけぼの学園」の全面改築に着手し、去る3月に完成したところです。

今年度は引き続き経営基盤の安定、強化を図る中で、次の3つの点を重点的に取り組んでいきます。まず、経営計画が最終年度にあたることから、これまでの総括をするともに次期経営計画の策定に取り組みます。2つ目は、当事業団が設立40周年を迎えることから関連する記念事業に取り組みます。3つ目は、老朽化した救護施設「よみたん救護園」の改築に向けて施設整備基本構想に基づき取り組みを進めます。

4月からの報酬改定では「介護」も「障害」も極めて厳しい内容となっており、これまで以上の経営努力が必要です。このような中にあっても利用者本位の福祉サービスの提供は、事業団の経営の根幹をなすものであり、これからも全役員でその質の向上に取り組みていきます。そして、地域の人からも信頼され愛される施設づくりに邁進していく所存です。

より良い支援を目指して

職員研究発表会及びQCサークル活動発表会



発表会の様子

当事業団の施設における日頃の研究成果やQCサークル活動について発表討議し、職場の問題改善意識の高揚を図るとともに職員の資質の向上

を図ることを目的に「職員研究発表会及びQCサークル活動発表会」を平成24年1月27日に那覇市で開催しました。各施設の職員及び理事・監事・評議員合わせて143人の参加がありました。

午前中は、特別講演にタナベ経営沖繩支社長高島健二氏より、「社会福祉法人を取り巻く環境と今求められていること」と題して講演をしていただきました。

午後からは、研究発表会及びQCサークル活動発表会が行われ、発表後には、活発な質疑応答が行われました。発表は次のとおりです。

研究発表

①「新体系移行にともなう日中活動の見直し改善に向けて」

障害者支援施設 都屋の里

介護員 義問道幸・山城重力

②「利用者のADL低下における園の取り組みについて」

救護施設 よみたん救護園

介護員 長嶺輝也・親富祖宏

③「排泄ケアの統一を目指して」

養護・特別養護老人ホーム 八重山厚生園

介護員 金城浩子

QCサークル活動発表会

①「外出をより楽しく行う」

障害者支援施設及び福祉型障害児入所施設 あげぼの学園

児童指導員兼生活支援員 仲間勝之

②「敷地内の環境美化活動の徹底」

いしみね救護園 前泊秀斗

研究発表会の際には、助言者として

児童養護施設美さと児童園施設長

宮城光宏氏にお越しいただき、各施設への助言と講評をいただきました。

上級リスクマネジャー養成講座を受講して

医療型障害児入所施設及び療養介護事業所 沖繩療育園

育成課長 親富祖正信

平成22年に初級リスクマネジャー

養成講座、今年度は上級リスクマネジャー養成講座を受講しました。初級ではリスク概念、サービスの質等、顧客満足、手順書の作成の講義。上級では初級を振り返り復習を行い、万が一の事故発生時の対応について講義があり、利用者の安全を確保するために全職員がリスクについての理解、全体への周知、安全にサービスを提供するためのマニュアル（手順書）が必要であり、このマニュアルを解りやすく作成するための解説がありました。

マニュアルは現場の職員自ら使うことを前提に、新しい職員でも覚えやすいように次の点があげられます。①何をするのはつきりさせる②誰が読んでも一つの意味にする③図やイラストなどを取り入れ読みやすくする④職場内で周知させる。⑤使いながら修正していくマニュアルは作りつばなしにせずPDCAサイクルを活用し、定期的に見直していくことが必要。

リスクマネジメントについても管理者がリーダーシップを取り、利用の安全・安心を確保することはもちろんですが、リスクマネジメント概念、手法を現場の職員に伝え、一緒に考えていくことの重要性を学びました。今後とも講座で学んだ事を活かし、利用者、ご家族が安心して日々過ごすことができるよう努めてまいります。

「経営セミナー」に参加して

養護・特別養護老人ホーム 宮古厚生園

副園長 友利勝政

平成24年2月24日に理事、監事、評議員、各施設の管理職を対象とした経営セミナー（法人本部主催）が開催されました。

同セミナーでは、経営コンサルタントによる「数字で組織をマネジメントする」の講演と過去5年間の決算数値から見た事業団の経営状況に関する提言等がありました。

講演では「数字は組織における唯一のものさしである」と経営における数字のもつ意味、重要性が強調されていました。

過去5年間の経営分析においては「これまでは概ね良好な経営状況であるが、福祉制度の変革など法人を取り巻く環境は常に変化しており、その変化に対応可能な組織とするためにはどうしたらよいか」コンサルタントとして企業再生に関わった経験からの組織の在り方等示唆に富む内容であり、これからの業務に活かしていきたいと思えます。

また、今回のセミナーでは法人役員等と各施設の管理職の意見交換会の場も設定されており、日頃接する機会の少ない役員の方々の貴重なご意見も伺うことができました。



介護技術研修の報告

介護の理念、介護技術の基礎を学び、利用者の支援及び施設サービスの向上を図ることを目的に、平成24年2月9日から2日間、生き活きサポートセンター（うるま市）高知代表・理学療法士の下元佳子氏、介護老人保健施設アルカディアの古謝早苗氏を講師とし介護技術研修を行いました。受講者は、各施設の全介護主任を必須に介護員等合わせて30人の参加となりました。

受講後のアンケートでは、「再度利用者の立場になって、介護技術方法を見直すきっかけになった」等前向きな感想が多数ありました。受講者の感想を紹介します。

受講者の感想

養護・特別養護老人ホーム 具志川厚生園

介護員 大見幸成

研修を受講して、動作介助と姿勢管理・ポジショニングについて重点的に学ぶことができました。

研修は、利用者の立場に立つて実体験を中心に行いました。これまでは、安楽のために利用



ベット上での移動の実技

者にクッション等決まった位置に設置すれば良いと思っていました。が、自身の実体験を通してみて、不快に感じるものが多々あり、利用者にも不安や、痛みを与えていることを痛感し反省しました。今後も利用者に安心・安全な介護を目指して行きたいと思えます。

養護・特別養護老人ホーム 宮古厚生園
介護員 長濱祐子

研修を受講して、ベッド上の利用者へ負担をかけずに体位変換、離床を行うこと、また、クッションを使用して利用者の身体をリラクセスしてもらうことにより、身体の拘縮の進行を和らげることや、無理やりの介護で床ずれや拘縮は作られるということを学ぶことができました。さらに、体圧を分散させ広い面積で身体を支えることが大切であることを話されていました。

研修を受けながら、自分自身が出来てやっていたケアを振り返り、改めて基本の大切さを学ぶことができ、大変実りのある研修でした。



クッションを使用しているポジショニング

利用者のQOLの向上を目指して

排泄委員会の取り組み

養護 特別養護老人ホーム 宮古厚生園
介護員 若林宏明

宮古厚生園の排泄委員会は介護員（主任ほか7名）、ケアマネ、管理栄養士、看護師で構成されています。月に1回、テーナアドバイザーを交えて委員会を開催しています。また、介護員だけの排泄ケアについての勉強会も月に1〜2回開いています。

これまで排泄委員会では次の取り組みをしてきました。①利用者個人にあったパットの種類や交換時間の改善。②腸内環境を整えスムーズな排便を促すためオリゴ糖の導入。③利用者の水分摂取量を増加して便秘解消をする目的で、デイルームに利用者が自由に飲める飲料水を設置したことや、3時のおやつ飲み物の種類の増加。④排泄チェック表を変更し、排泄についての情報が詳しく記載できるように改善。⑤ブリストルスケールを使用して、排便の形状をI〜VIIに分類して記録し、硬便と軟便（下痢便）が頻回にある利用者をリストアップし、原因を探り排便コントロールを改善する取り組みも開始しました。

排泄委員会を中心に、一人でも多くの利用者が普通便を排泄できるように全職員で協力し、排泄に関わるそれぞれの分野のケアの見直しを図り、排泄ケアの向上に取り組みたいと考えています。

施設の改修

婦人護施設 うるま婦人寮
寮長 譜久山路子

去年9月、旧母子棟の解体から改築工事が始まりました。旧母子棟は、昭和49年3月竣工の建物で37年が進行しており、特に外壁には、大きなひびが目立ち安全性等への懸念が指摘されていました。今回、母子棟改築は「住民生活に光をそそぐ交付金」を活用して行われました。

新母子棟は、1階に保育室、学習室等共有スペースがあります。2階には、娯楽室、洗濯室、居室等居住スペースがあります。

居室は6部屋、8畳。各居室にはトイレ、シャワー、ベランダ、そして、作り付けのタンス等が設置され、現代の生活スタイルに対応するようになっていきます。

今年、3月末に待望の建物が完成しました。工事に携わった全ての人に感謝して新母子棟への引越しを楽しみにまっています。



改築の様子

平成24年度 事業計画及び当初予算

事業計画 (主要事業等)

平成24年度は、経営計画推進プログラムに基づいて「利用者本位のサービスの質の向上」「経営基盤の強化」「地域貢献」に取り組んでまいります。
また、経営計画最終年度にあたることから、これまでの取り組みと次期経営計画の策定に取り組みます。

■主要事業等

- 1 サービスの質の向上
 - (1) 職員倫理綱領及び職員行動基準の周知徹底
 - (2) 苦情解決システムの実効性ある運用
 - (3) サービス評価の取り組み
 - (4) リスクマネジメント体制の構築
 - (5) 利用者の意見聴取
 - (6) 情報開示・提供体制の整備
 - (7) ISO9001の継続運用
- 2 法人の社会機能の強化
 - (1) 在宅福祉事業の推進
 - (2) 専門技能等を活かした地域福祉支援
- 3 財務基盤の安定化
 - (1) 経営目標と連動した予算策定
 - (2) 法人経営に係る経営対策監会議の開催
 - (3) 実績会議の開催
 - (4) 経営分析
 - (5) 支出管理
 - (6) 未収金管理
 - (7) 公益資金の積極的活用
- 4 施設整備
 - (1) 各施設の機能強化及び新規事業に伴う新築・増改築
- 5 人材育成
 - (1) 人事管理方針の確立
 - (2) 管理者及び専門性の育成
 - (3) 指導力の向上
 - (4) 福祉制度変革及び地域と密着した施設経営の構築
- 6 法人の組織強化
 - (1) 法人組織の整備
 - (2) 内部監査の実施
 - (3) 組織及び職員配置の弾力的対応
 - (4) 職員の資質の向上と職場の活性化
 - (5) 法人設立記念事業の実施
 - (6) 職員の経営意識の高揚
 - (7) 広報活動の推進と関係機関との連携
 - (8) 施設機能の地域開放
 - (9) 関係機関との連携強化

■今年度の重点取組

- ・ 各施設は、上半期の職員ヒヤリングを基に8月に倫理委員会を開催し、下半期は職員ヒヤリング及び自己チェックを基に2月に倫理委員会を開催する。
- ・ 各施設の半期ごとの倫理委員会を踏まえ、9月と3月には 法人全

体の倫理委員会を開催する。
福祉サービス第3者評価を漲水学園及びあけぼの学園において受審する。
各施設は、『事故発生防止のための基本指針』に基づき、毎月事故発生防止委員会を開催する。
名護厚生園においては、リスクコンサルタントを再導入し、事故防止活動の検証を行う。
リスクマネジメントの体制強化を図るため、中間管理者を指名しリスクマネジャー養成講座への研修に派遣し、その後OJTを行う。
各厚生園は、居宅介護支援事業所及び訪問介護事業所と養護老人ホームの連携のあり方を検討する。
漲水学園は、児童家庭支援セン

ターの設置に向けて関係機関と協議を行う。
あけぼの学園は、就労継続支援B型事業所の利用拡大を図るとともに、グループホームのあり方を検討する。
よみたん救護園は、施設整備基本構想に基づき取り組みを進める。
管理者研修はコンサルタントを活用し、継続的・計画的に実施する。
各施設の日頃の実践活動を討議発表し、福祉施設職員としての知識の向上及び職員の士気の高揚を図るため、実践活動発表会を行う。
活力ある組織風土構築のため、具志川厚生園にて組織風土改善のため

平成24年度 資金収支予算書

(自) 平成24年 4月1日 (至) 平成25年 3月31日 (単位: 千円)

勘定科目		法人全体			
		当年度 予算額 ①	前年度 予算額 ②	増減 ①-②	
大区別					
經常活動支	収入	經常活動収入	4,142,176	4,035,081	107,095
	支出	經常活動支出	4,091,996	3,585,821	506,175
		經常活動収支差額	50,180	449,260	△ 399,080
就労支援支	収入	就労支援事業収入	1,745	1,602	143
	支出	就労支援事業支出	5,991	5,370	621
		就労支援事業収支差額	△ 4,246	△ 3,768	△ 478
施設整備支	収入	施設整備等収入	5,343	623,884	△ 618,541
	支出	施設整備等支出	178,256	935,121	△ 756,865
		施設整備等資金収支差額	△ 172,913	△ 311,237	138,324
財務活動支	収入	財務活動等収入	527,173	818,663	△ 291,490
	支出	財務活動等支出	356,147	1,186,669	△ 830,522
		財務活動等収支差額	171,026	△ 368,006	539,032
当期資金収支差額			44,047	△ 233,751	277,798
前期末支払資金残高			733,419	967,170	△ 233,751
当期末支払資金残高			777,466	733,419	44,047

注釈: 会計単位間繰入金収入・支出及び経理区分間繰入金収入・支出を省く

栄養ケア・マネジメント実践について

障害者支援施設 都屋の里

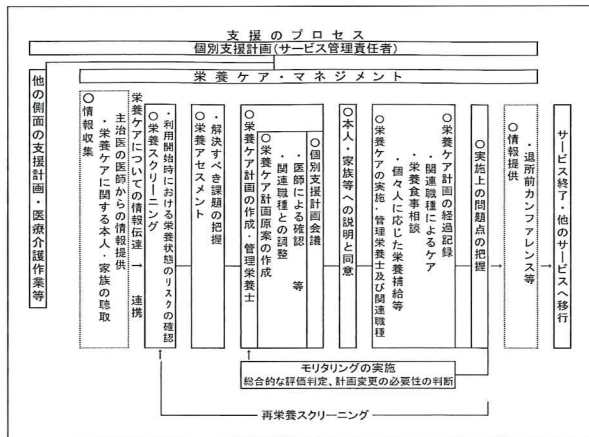
管理栄養士 大城圭子

都屋の里は、平成24年1月1日より「身体障害者療護施設」から、障害者自立支援法に基づく「指定障害者支援施設」に移行しました。それに伴って、栄養ケア・マネジメント体制が導入され、「給食サービス」から「個別サービスとしての栄養ケア」の提供へと大きく転換しました。

食べることは利用者にとって、生命の維持を図ることだけではなく、大きな楽しみの一つでもあります。しかしながら、様々な障害や幅広い年齢層がある利用者の個人差は非常に大きく、そのため利用者の健康管理や嗜好を定期的に把握し、一人一人に応じた栄養管理を行うことにより、健康維持増進と疾病予防やQOLの向上を図ることができます。

そこで栄養ケアを実践するにあたり、個々人の生活歴・食歴を背景に栄養状態のリスクレベル(スクリーニング)を把握し、その後、利用者から食事に対して要望等を含め聴取し、聴取のできない利用者は家族に意向を伺い、その上で課題の把握(栄養アセスメント)を行いました。

その人に適したオーダーメイドの食事を提供するには、関連職種が相互に連携し、情報の共有が前提となります。



栄養スクリーニングやアセスメントのもとに、問題解決のために関連職種によるマネジメント会議を開催し、個人の意向に沿った栄養ケア計画を作成し、さらに、家族説明会で事前に作成した栄養ケア計画書を家族の方に確認していた。ご同意を得て、栄養ケア計画を実施しました。

利用者の高齢化に伴いADLレベルが低下し、嚥下・摂食障害や様々な疾病をかかえた利用者も増えてきています。「食」は生きて行く上で欠かせないものです。それを再認識し栄養改善や食生活の質の向上を図るために、栄養管理の面から支援を行っていきたくと思っています。

職員の語り

医療型障害児入所施設及び療養介護事業所 沖繩療育園

准看護師 仲田さとみ



「詠歌」

日常生活の中で、私がほっとひと息入れる空間と時間、心やすらぐ時は、歌を詠んでいる時です。その時の心境で俳句、川柳、短歌に、自身の気持ちを投影します。

先日、休日にドライブに出かけて北中城のひまわり畑で詠んだ短歌「寒空に 黄金色の散歩道 笑顔あふれる 向日葵畑」



救護施設 友利一雄

「仕事の息抜きフットサル」

私は余暇活動として、高校時代の先輩や後輩達と週2回程度フットサルを楽しんでます。時々、日系の方や、韓国、アメリカの方ともゲーム形式で交流をすることもあり、国際交流を兼ねて、楽しみながら体を動かしています。

日頃は、介護の仕事へ全力投球ですが、少し疲れが溜まることもあり、フットサルは僕にとっては、何事にも勝る息抜きの時間となっています。

私は、名護厚生園に配属になって3年が経とうとしています。この3年間で趣味が増えました。名護厚生園の職員は多趣味の方が多く、野球・ゴルフ・釣り・バンド・ポウリングなど男子職員を中心として活動を行っています。野球は2ヶ月に1度、宜野座村のいでこ園と試合を組んでいます。試合に向けて昼休みにキャッチボールを行っています。試合は勝敗だけでなくコミュニケーションを図り、楽しく笑いの多い試合です。

勤務がシフト制であること等で、みんなが集まることは難しいですが、ゴルフ・釣り・ポウリングなどを通して楽しくリフレッシュしています。みんな健康で長生き出来るよう、今を楽しんでいます。



勝利のVサイン

施設長リレーエッセイ

私の趣味、オカリナ

医療型障害児入所施設及び療養介護事業所 沖縄療育園

園長 平安山英盛



参加した翌日、お土産を探して近くの古物屋を巡っていました。潜水艦の形をした素焼きの陶器で出来た笛がありました。素朴な色、変な形に魅せられて購入したのがオカリナでした。練習の仕方知らず、ずっと眠らせたままでした。15年ほど前、郷里の辺土名で、弟の嫁のオカリナを聞き、その心地よい音色に初めて魅せられて、眠っていたオカリナを取り出して、早速練習を始めたのが事の始まりでした。はじめは八長調の「たなばた」を何度も練習しました。次に、♭や#記号のついた曲目を練習し、♭や#記号が3つついた楽譜にも挑戦し、楽譜なしで吹ける自分の得意な曲目を3つほど作りました。辺土名に帰るときは、弟の嫁さんにピアノ伴奏してもらって、吹くようにしました。伴奏で吹くと、一段うまくなったような気がするものです。「上手になったね」とのお褒めの言葉にますます有頂天になり、さらに練習を重ねました。

私の姪の平安山恭子(当時研修医)



利用者へオカリナ演奏を披露

がピアノ伴奏して、2回ほど練習をして、中部病院の「小さな音楽会」でデビューしました。大きな失敗もなく、自分では満足のいく演奏でした。それからはますます練習時間が増え、家内からは、「恐怖のオカリナ」と言われはじめました。その当時、家に居たのは夫婦2人と猫の「なる」の3人(?)だけでしたが、その「なる」さえも、わたしがオカリナを吹き出すとその場から逃げ出す始末でした。オカリナは、ちいさくて、ポケットに入れての持ち運びも簡単で、忘年会や結婚式などで演奏することも出来ます。山登りも好きなので、山頂からオカリナを吹いたりします。誰にも遠慮なく大きな音で吹け、透き通った音色が山々をこたまし、とつても気持ちよくなります。めじろなどの小鳥が近くに寄ってきて鳴き始めたりします。指を全部使うので認知症予防にも大変いいそうです。さーあなたも始めてみませんか。

定年退職を迎えるにあたって

漲水学園 管理課長 與那覇順子



事業団の職員として昭和52年1月24日付で採用され、あけぼの学園・宮古厚生園・漲水学園に勤務し、いよいよ定年退職することになりました。

あけぼの学園の利用児童や利用者皆さん、そして漲水学園の児童の皆さんが改築された新しい環境で安心・安全でより充実した支援が受けられるように願っています。

また利用者の方々の接し方や業務の進め方など、先輩方にご指導を仰ぎながら日々の業務を遂行できた事に対し、感謝の気持ちでいっぱいです。

最後になりましたが、事業団の発展と職員一同のご健康をお祈り申し上げます。

沖縄療育園 介護課長 新垣貞美



昭和58年8月1日、事務補助要員としていしみな救護園に採用され、3年ほど非常勤としての勤務の後、調理員として北嶺学園に正職員配置されたのが昭和61年4月1日、あつと言期間の26年間でした。

調理員としての9年間の後、沖縄療育園では洗濯場への配置、リネン類全般に関わる事になり、利用者の生活の質の向上を目指して、布オムツから紙オムツへの切り替え、個別化した衣類の洗濯業務の外部委託と改革の5年間でした。その後介護員に職種変更、利用者の皆様の生活に関わる衣、食、住の職を経験した事が私の誇りとなり、平成19年4月1日、介護課長として配置された時の大きな自信に繋がりました。定年退職を迎えるにあたり、支えて下さった皆様に心から

感謝申しあげます。

沖縄療育園 臨床検査技師 與那覇工三子



昭和51年就職以来36年が経過し、この度定年を迎える事になりました。改めて歳月の過ぎ去る早さに驚くとともに、初めて療育園を訪れた時の事を思い出します。経塚の小さな丘に囲まれる様に建つ療育園はとても印象的でした。前任者からの業務引き継ぎも無いため、まずは掃除と器具点検。検査を軌道に乗せるため模索中、病棟での疥癬騒ぎ。乏しい知識と本を片手に鏡検、見つけた疥癬虫。以前勤めていた大学病院での病理標本作りとは異なる達成感がありました。これを機に類似施設へ情報収集に赴き設備も少しずつ充実し現在に至っています。時は流れ、かつての森閑とした地域にも開発の波は押し寄せています。当園も更に新しいページを刻みながら一層発展する事を祈願し寄せる言葉とします。

沖縄療育園 ポイラー技士 高江洲善清



「月日ぬ走や馬ぬ走」振り返ると、29年9ヶ月が経ちました。当初は、施設の老朽化で水道配管は漏水、大雨が降れば雨漏り等施設整備に追われる毎日で苦労したことを思い出します。また、職員手作りの遊歩道工事等、色々ありました。

仕事外ではマラソン大会・辺戸岬療育園間の縦断駅伝・労金スーパードライブ大会優勝等、楽しい思い出がいっぱいありました。

これからは第3の人生を歩きますが、職員の方皆さんには健康に留意し、やりがいのある明るい職場づくりを目指して

下さい。それから、事業団の益々の発展を祈念します。ありがとうございました。

よみたん救護園 事務員 富本悦子



昭和49年4月に事業団職員に採用となり、沖繩療育園に赴任することになりましたが、初めての福祉施設勤務で業務に対する知識もなく毎日戸惑いながらも、同僚と励ましあいながらのスタートでした。その後、うるま婦人寮、いしみね救護園、事務局、具志川厚生園、名護厚生園そして現職場のよみたん救護園を最後に無事38年間勤めることができ定年を迎えることになりました。それぞれの職場で上司、諸先輩、同僚の皆様を支えられ、多くの利用者との関わりの中で、色々な事を学び楽しく仕事をすることができました。また、たくさんの友人ができたことは私にとつてかけがえのない財産であります。心より感謝申し上げます。

最後に事業団のさらなる発展と職員の皆様のご健康とご活躍を祈念いたします。

北嶺学園 管理栄養士 名嘉悦子



春うららかな候、北嶺学園を最後に定年退職することになりました。

昭和49年9月に採用され、足掛け37年余、人生の大半を事業団の栄養士として食に携わる仕事を経験させていただきました。

利用者様の『おいしかったよ』『ぜんぶ食べたよ』の声に喜びを感じ、又、上司や先輩・後輩の良きアドバイスに支えられ、これまで大過なく勤めることができました。皆様方のご厚情に深く感謝しております。

これからは、趣味などを楽しみながら第二の人生を充実したものにしていきたいと思っております。

皆様方のご健康とご多幸今後の事業団の発展、繁栄を心から祈念申し上げます。

いしみね救護園 介護員 桃原長勇



定年を迎える事となり歳月の早さを実感しております。昭和60年に事業団に採用となり、8月に具志川厚生園

を皮切りに、その後沖繩療育園・北嶺学園・いしみね救護園と勤務した27年間で、2度目の沖繩療育園勤務の際に調理業務の民間委託の話が持ち上がり、定年まであと1年というところで厨房は委託となりました。職種変更を決断し介護員としての道を選びました。初めての経験で、さすがに大変厳しい日々でした。先輩方に応援・ご指導を受けながら今日の日を迎える事が出来、いしみね救護園の皆様とも関わられた事に、心より感謝しております。本当に有り難うございました。最後にありますが、事業団の益々のご発展と、皆様方のご健康とご多幸をお祈り申し上げ御礼の言葉に代えさせていただきます。

宮古厚生園 准看護師 平良光子



平成3年に宮古厚生園に就職してから20年の歳月が経過しました。当時の宮古厚生園

は市内に在り、養護の利用者は容易に外出ができ、買い物等を楽しむ事が出来ました。

また、園の周囲には季節の花が咲き、花壇は利用者が楽しんで手入れをしていました。それが精神的安定の良いケアになつていたように思われます。業務に於いては家族、職員、特に嘱託

業務に於いては家族、職員、特に嘱託

医との連携により、利用者に心地良く過ごしていただけるように力をいれてきました。夜間の緊急対応には気持ちよく対応する事に心配りをしてきたつもりです。利用者の殆どの家族は園での看取りを希望され、この20年間に看取った方々はたくさんいます。多くの方々のお世話をさせていただけた事は今では大切な財産となっております。

宮古厚生園 介護員 奥平玉子



この度、定年を迎えることになりました。昭和60年7月に沖繩県立宮古厚生園の寮母として採用されました。あれ

から約27年の歳月が過ぎました。当時、私は介護の仕事は初めてでしたので、不安もありました。施設での業務を行なっていく中で、人生経験の多い利用者、上司、先輩職員からさまざまな事を学び、後輩の職員からは元気の源である「若いパワー」を頂き、自分自身も成長できたと感謝の気持ちでいっぱいです。

退職後もこれまで仕事を通して得た経験を生かしながら日々頑張りたいと思います。これからも宮古厚生園の利用者が毎日、安全で楽しく生活が出来る事と、職員の皆様のご健康とご活躍を祈ります。最後に、事業団の今後の発展を祈念いたします。

八重山厚生園 介護支援専門員 上地悦子



平成2年4月、事業団に採用され早いもので22年が過ぎ、退職を迎えることになりました。

思えば、短期入所の予定表を組むのに苦労した日々、新築移転で大変だった事等、今では懐かしい思い出です。利用者の皆様、諸先輩方、同僚、後輩の皆さん、

本当に良い仲間恵まれ楽しく勤める事が出来、感謝の気持ちで一杯です。有り難うございました。

八重山厚生園が八重山地区の地域福祉に果たす役割は大きいものがあります。このような施設で定年まで勤められたことは、これから先の人生に大きく役立つと信じております。

最後に、民営化して6年、社会福祉をとりまく情勢の厳しい中、事業団の益々のご発展と職員皆様のご健康を心よりお祈りいたします。

八重山厚生園サービス提供責任者 砥板整子



平成2年八重山厚生園に介護員として採用されました。老人ホームでの勤務は初めてで、何もかもが新鮮で、

笑い有り涙ありの21年間でした。先輩や同僚、利用者から温かい言葉を掛けて頂きましたことに感謝申し上げます。平成19年に訪問介護事業所が開設されたからは、サービス提供責任者、介護員として養護利用者や地域の利用者から叱咤激励され、信頼関係を築きながら楽しい仕事が出来たことに感謝しております。これからも八重山厚生園が、地域に根ざし地域と共に更に発展して行くことを願っております。

平成24年度 人事異動

異動(4月1日付け) ()内は前職場など

いしみね救護園 園長 竹田陽一 (昇任:八重山厚生園)

生活支援課長 新里健 (具志川厚生園)

浜水学園 管理課長 与儀文博 (昇任:宮古厚生園)

あけぼの学園 管理課長兼サービス管理責任者 砂川広美 (昇任)

具志川厚生園 生活支援課長 上原剛 (昇任)

八重山厚生園 庶務課長 田島学 (いしみね救護園)

施設
だより

みんなで新年会

児童養護施設 漲水学園

児童指導員 宇座正市

平成24年1月21日(土) 漲水学園児童29名はホテルブリーズベイマリーナ内にあるレストランで新年食事をを行いました。

「児童の健康と活躍を願い、児童と職員の親睦を深め新年を祝う」を行事テーマに定め、みんなでおいしい料理を堪能しました。食事は児童の間で人気の行事で、初めて踏み入れる場所や雰囲気を感じ動！人の多さにビックリ！。今まで食したことがない食材、さまざまな味付けの料理や色鮮やかなデザートに惚れ惚れで我のお皿に夢中でした。

今でも児童が口いっぱい頬張る姿が忘れられません。

このような経験や体験をとおして「全児童が家庭的な雰囲気を感じて、中学生や高校生は自立へ向けての目標を考えることが出来ることと思いません。



スポーツ大会で地域交流

障害者支援施設及び福祉型

障害児入所施設 あげぼの学園

生活支援員 宮里幸代

平成23年度宮古地区知的障がい者スポーツ大会が3月7日に開催されました。連日の雨続きで心配されましたが、当日は晴れ間が広がり無事開催となりました。

キックベースボールと輪投げ・ストラックアウトに分かれて、全利用者(通所利用者含む)、わかば児童を合わせて34名が参加し、他施設の皆さんと楽しく交流を深めることができました。輪投げでは、日々のレク活動を利用した練習の成果もあり次々と得点を重ね、満足気な表情がたくさん見られました。また、キックベースボールでは大きな広場いっぱいに散らばり、守備に攻撃にと、元氣よく駆け回る姿に、応援団にも熱が入り、ついつい大声になる姿がありました。

全員が力を合わせてがんばった結果、Aブロックで全勝優勝に輝きました。賞状と優勝記念品および参加賞をいただき、帰りのバスでは、来年も「がんばろう」という声が聞かれました。



施設
だより

ふるさと訪問

障害者支援施設 都屋の里

介護員 真謝孝雄

昨年10月より約20数年ぶりにふるさと訪問が復活しました。きっかけは利用者からの「声」でした。月1度利用者主体の集まりの中から、自ら生まれ育った場所や慣れ親しんだ地域を訪問したいとの要望があり、昔を懐かしむことや家族交流を深めることを目的としてスタートしました。

平日の取り組みにも関わらず、利用者の自宅前にはご家族やご親戚、ご近所の皆様が出迎えられ、利用者を囲んでの心温まる和やかなひとときを過ごされています。

また、帰園後の利用者の表情もとても明るく、リフレッシュ的な波及効果も認められます。利用者の地元は本島から離島地域まで及んでいるため、ご家族からの協力を得て、連携を密にとりながら支援に取り組んでいます。離島周辺地域の利用者については、ふるさと訪問を計画的に取り入れながらサービスの更なる充実を図っていきたいと考えています。



作品展・即売会

障害者支援施設 北嶺学園

生活支援員 吉浜和則

平成24年2月19日(日)、当園駐車場にて作品展・即売会が行われ、日中活動(農耕・園芸、手芸、結び織り、創作活動等)の成果を、ご家族や地域の皆様へ紹介する事が出来ました。

また、今回目の試みである相談コーナーを設け、地域の方からも健康や栄養に関する相談を頂きました。栄養コーナーにおいては、展示していた1kgの脂肪サンプルを手に「1kgって、こんなにあるの！」や、食品中に含まれる砂糖分量サンプルに「こんなに砂糖が含まれているの！」など、驚きの声が聞かれました。

今回石嶺ハイツ自治会長様の協力を得て地域から多くの皆様のご来場を頂き、当園の事をより理解して頂く良い機会になったと実感しています。今後も地域の皆様との交流を通し、利用者との繋がりを大切に、支援していききたいと思います。

